

# 天馬の記

大耕部岡

28

あのラストシーンが忘れられない。脚本は橋本忍であった。

あの日は、わたしが脚本家橋本忍を意識した日でもあった。山

田洋次との共同脚本「砂の器」

は、原作者の松本清張をして「原作を上回る出来」といわしめた傑作である。あの映画にも映画

のすべてがあつた。なによりも

素晴らしかったのは、放浪する

親子を日本の四季の風景で描いたことである。

「忠臣蔵」がいまもなせもてはやされるのか。「忠臣蔵」も日本の四季の風景で描かれてい

るからである。桜の季節に事件が起り、夏の猛暑を耐えに耐え、落ち葉の秋に周到な準備を

して、雪の冬に討ち入る。日本が脚本家である。わたしは跳び

中学で「飛びたつ雁」という短編の小説をシナリオにする国語の授業があつた。鉄砲で撃たれて傷ついた雁を、老人と少年が看病して空へ放すという話で

## 橋本忍を意識した

ならではである。わたしが監督ならは討ち入りの戦いのシーンでも大雪を降らせる。ラストシ

ーンの切腹は桜吹雪である。

「生きる」「七人の侍」「蜘蛛巣城」「日本のいちばん長い日」。

重要な日本映画には、どこにも名脚本家橋本忍の名があつた。

「生きる」「七人の侍」「蜘蛛巣城」「日本のいちばん長い日」。

重要な日本映画には、どこにも名脚本家橋本忍の名があつた。

おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

「人ばたいたとは初めてよ」と女の先生はいつていたが、あれから男を平手打ちしたことはないのだろうか。わたしは、その女の先生が好きだったこともあり、国語の時間の小説をシナリオにする授業には凝りに凝つた。

(松浦市出身)